

肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ボス「インシュリン」ノ影響

東京市療養所(所長田澤博士) 佐々井 虎雄

〔I〕緒言

「インシュリン」ハ各種分泌腺ノ機能ニ作用スルモノニシテ是レニ關スル業績ハ少ナカラズ、而シテ多クノ場合其ノ作用ハ機能亢進的ナルハ既ニ一般ニ承認セラレタルガ如シ。胃液ニ對シテモ大體ニ於テ亢進的ニ作用スト云ハル。例ヘバ Popesco u. Diculesco ノ如キハ空腹時ニ於テモ亦消化中ニ於テモ「インシュリン」ハ著明ニ胃液分泌ヲ促シ、且ツ其ノ酸度ヲ上昇セシム。從ヒテ治療上胃酸缺乏症ニ應用シ得ベシト云フ。是ニ關スル吾ガ國ノ文獻ハ甚ダ少數ニ過ギザルモ何レモ亢進作用ヲ承認セリ、即チ伊澤氏ハ人及ビ犬ニ就テ實驗的研究ヲ行ヒテ、胃液分泌促進作用竝ビニ食欲増進作用ヲ認め、從ヒテ「インシュリン」肥胖療法ノ可能ナル可キヲ説ク。寺島氏ハ各種患者ニ就テ検査ヲナシテ、試験食ノ種類ニ依リ作用ノ程度ニ差異ヲ示スモ、大體ニ於テ分泌ハ亢進セラレ、空腹時ニ於テ特ニ著明ナルヲ認ム。唯ダ此ノ「インシュリン」ノ作用ハ一時性ニシテ持續的ナラズト云フ。又岡田氏等ハ「インシュリン」ニヨル寡血糖症狀ノ隨伴現象トシテ腓液ト同様ニ胃液モ亦分泌亢進ヲ來ス事實ヲ實驗的ニ證明セリ。扱テ肺結核患者ニ就テハ如何ト云フニ、唯ダ津下氏が夫レノ「インシュリン」肥胖療法ニ際シテ、二例ニ就テ行ヒタル胃液検査ノ報告アルニ過ギザルガ如シ。氏ハ同様分泌亢進ヲ認め居レリ。

余ガ本研究ヲ企圖シタル所以ハ一ツニ此ノ乏シキ文獻ヲ補ハンガ爲メニシテ、同時ニ又肺結核患者胃液分泌狀態ノ一斑ヲ視ハントスルニ外ナラザルナリ。

〔II〕實驗方法及ビ實驗患者

胃液採取ハ Lehmann ノ胃「ゾンデ」ヲ用ユル分割的採取法ニヨリタリ。即チ先ヅ早朝空腹時ニ胃液ヲ可及的ニ吸出シ盡

シ、次デ「パン」八〇瓦、白湯二〇〇坵ヨリ成ル試験食ヲ與へ、食シ了リテヨリ三〇分目ヨリ三〇分毎ニ凡ソ一〇坵宛液ヲ吸出シ三時間ニ及ブ。而シテコレヲ對照胃液トナス。本試験ニ於テハ早期空腹時ニ「インシュリン」ノ一定量ヲ皮注射トシテ與へ、三〇分後ニ可及的胃液ヲ吸出シ、次デ試験食ヲ與へテ後三〇分毎ニ胃液ヲ採取シ三時間ニ及ブハ前斷ナリ。

サテ胃液分泌ノ状態ヲ論ズルニ當リテハ其ノ分量的關係ヲ知ルハ重要ナル點ナルモ、臨牀的ニハ夫レヲ正確ニ知ル方存セザルヲ以テ余ハ一般ニ倣ヒ、其ノ酸度及ビ「ペブシン」量ヲ測定シ以テ分泌状態ノ推定ヲナシタリ。即チ得タル胃ノ濾液又ハ遠心沈澱シタル上清一〇坵ヲトリ $N\frac{100}{100}$ 苛性曹達ヲ以テ、遊離鹽酸ハ「ヂメチールアミドアズベンゾール」ヨ總酸ハ「フェノールフタレイシ」ヲ標指藥トシテ滴定シ、其ノ得タル値ヲ一〇〇〇坵ノ胃液ヲ中和スルニ要スル $N\frac{10}{10}$ 苛曹達ノ坵ニ換算シテ其ノ度ヲ示ス。

「ペブシン」量ノ測定ニハ普通法ヲトラズシテ須藤博士ニヨル Michaelis u. Rothstein 氏法ノ變法ヲ用ヒタリ。本法ハ「ペブシン」五〇瓦ヲ一〇%食鹽水五〇〇坵ニ溶解シ、八日間冷暗處ニ置キタル後、同量ノ「グリセリン」ヲ加ヘタモノヲ製ス。コレヲ $N\frac{100}{100}$ 鹽酸ヲ以テ千倍ニ稀釋シタルモノヲ規準「ペブシン」液ト稱シ、本液ノ一〇坵ガ有スル「ペブシン」量ヲ $1\frac{10}{10}$ 「ペブシン」單位トナス。而シテ本液ト種々ニ稀釋シタル胃液トガ「カルミンフキブリン」ヲ溶解スル力ヲ比的ニ比較シ以テ胃液ノ「ペブシン」量ヲ定ムルモノナリ。

余ハ本實驗ニ於テハ單ニ「インシュリン」一回注射ノ胃液ニ及ボス作用ヲ見ルニ止マラズ、相當期間コレヲ連用シ其ノニ於ケル影響及ビ連用中止後ニ於ケル持續作用ノ有無ヲモ觀察シタリ。更ニ分量的關係ヲ知ランガタメ三單位(〇・三)ヲ用ヒシ場合ト、一〇單位(濃厚「インゼリン」〇・五坵)ヲ使用シタル場合トノ兩様アリ、コレ江田氏ハ「インシュリン」連用ハ糖同化機能ノ減退ヲ來スト云ヒ、又 Schellong u. Hufschmid ハ「インシュリン」肥胖療法ニ際シテ Scheinbare wönnung ニ就テ述ベ、余モ亦結核患者ノ食慾不振ニ「インゼリン」ヲ應用スルニ當リ數日連用後ニ於テ其ノ作用ガ減退示ス事實ニ遭遇シタルコト屢々ナルノミナラズ、三單位ニヨリテハ大多數例ニテ著明ノ空腹感ノ發現ヲ來スニ反シ、

○單位ヲ用ユル時ニハカ、ル例ガ却ツテ少數ニ止マルノ事實ヲ見タレバナリ。
使用シタル「インシュリン」ハ凡テ邦製「インゼリン」ナリ。

實驗シタルハ凡テ肺結核患者ニシテ其ノ病期ハ各期ニ互ルモ主トシテ無熱、停止性ノ例ヲ選ビタリ。コレ然ラザルモノハ連續的検査ニ堪ヘ得ザルヲ以テナリ。

本研究ハ一昨々年四月ヨリ始メ昨年四月ニ互ル二ケ年ノ比較的長時日ヲ要シタルモノナリ。然ルニ不拘實驗例數ハ甚ダ多カラズ。コハ重症例多キ療養所ニテハ適應例ヲ得ルニ難キノミナラズ。病症ニ依リ中途實驗ヲ中止セザル可ラザリシモノアリ。尙ホ結核患者ハ一般ニ神經質ナルタメ、胃「ゾンデ」ヲ嚥下シ得ザルモノ少ナカラズ。且ツ折角嚥下スルモ咽頭部刺戟ノタメ直ニ嘔吐ヲ催スコト多キ等ニ事由スルモノナリ。坂本氏等ハ四〇例ニ於テ胃「ゾンデ」ヲ嚥下シ得ザリシハ一例モナシト云ヘルガ、コノ點普通人ト結核患者トノ相違ニ依ルモノナルベシ。

余ハ又胃液吸出ニ際シ充分注意ヲ拂ヒシニ不拘、血液ヲ吸出シタルタメ實驗ヲ中止セシ數例ヲ有ス。カ、ル記述ハ文獻ニ於テ嘗テ見ザル所ナリ。コノ血液ガ何處ヨリ由來セシヤ、肺結核患者ニテ特ニ起リウル事ナルヤ、又單ナル偶發事項ナリシヤハ知ル能ハザルモ、注意スベキ點ト信ズルヲ以テ其ノ事實ノミヲ茲ニ附記ス。

〔Ⅲ〕實驗ノ(一)(三單位ヲ用ヒタル試驗)

本試驗ハ一例ノ患者ニ就テ行ヒタリ。先ヅ第一日ニハ對照胃液ヲ採取ス。第二日又ハ第三日ヨリ「インゼリン」三單位ヲ用ヒテ本試驗ヲナス。即チ第一回注射時、同單位ヲ毎食前三〇分ニ注射シコレヲ連續シタル一週間後、尙ホIV及ビVI—XIノ七例ニテハ二週間連用後、更ニVII—XIノ五例ニテハ注射中止後一週間ニテ夫々胃液ヲ採取シテ對照胃液ニ對スル變化ヲ觀察シタリ。左表ハ其ノ成績ナリ。

(表中ニテ、「増」ハ増殖型、「滲」ハ滲出型、「緩進」ハ緩慢進行型、「停」ハ停止型ヲ示シ、病期別ハツルバン、ゲルハルトニ依ル。又「遊酸」トアルハ遊離鹽酸、「ペプシン」ハ單位數ヲ示ス。以下各表同斷ナリ。)

第 一 表

I例 ■某 32歳 三期、増、停、無熱

事 項	採取時	試験食前	試 験 食 後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
對 照	注射前	遊 酸	0	0	0	0	7	0	0
		總 酸	(-)	(-)	4	1	26	6	3
		「ペプシン」	0	±	1000	±	1250	1000	0
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	0	3	5	20	14	8
		總 酸	(-)	2	11	30	28	25	16
		「ペプシン」	0	0	666	1250	2000	2000	2000
	一週間連用後	遊 酸	0	0	0	6	2	10	7
		總 酸	1	2	1	17	14	20	13
		「ペプシン」	6	333	0	1000	500	1000	1428

第 二 表

II例 ■某 29歳 三期、増、緩進、微熱

事 項	採取時	試験食前	試 験 食 後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
對 照	(注射前)	遊 酸	0	0	0	2	4	7	17
		總 酸	±	1	±	14	16	19	31
		「ペプシン」	0	0	0	125	333	666	1000
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	/	0	6	8	13	17	25
		總 酸	/	3	14	15	23	21	41
		「ペプシン」	/	80	1428	166	500	500	1666
	一週間連用後	遊 酸	0	5	5	11	9	13	28
		總 酸	(-)	11	12	8	13	25	42
		「ペプシン」	0	100	100	100	100	1000	2000

原 著 佐々木肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ホス「インシュリン」ノ影響

第 三 表

III例 ■■■某 35歳 三期、増、停、無熱

事 項		採 取 時	試験食前	試 験 食 後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對 照 (注 射 前)	遊 酸	0	0	0	5	15	26	23	5
	總 酸	±	2	11	31	40	40	36	18
	「ペプシン」	200	66	100	1000	1000	1000	1000	2000
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	16	7	36	29	24	/	/
		總 酸	20	12	45	42	37	/	/
		「ペプシン」	2000	666	1380	1400	2000	/	/
	一週間連用後	遊 酸	0	0	8	28	25	/	/
		總 酸	4	5	26	46	49	/	/
		「ペプシン」	666	250	500	2500	2500	/	/

第 四 表

IV例 ■■■某 22歳 三期、増、停、無熱

事 項		採 取 時	試験食前	試 験 食 後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對 照 (注 射 前)	遊 酸	0	3	23	27	13	/	/	
	總 酸	(-)	11	39	51	27	16	/	
	「ペプシン」	/	666	1250	1666	1000	1000	/	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	/	17	14	22	16	/	/
		總 酸	/	33	35	40	38	34	/
		「ペプシン」	/	1050	1050	1111	1380	1428	/
	一週間連用後	遊 酸	0	6	5	15	19	/	/
		總 酸	3	20	18	30	31	22	22
		「ペプシン」	0	830	830	1000	1666	1666	1428
二週間連用後	遊 酸	11	2	13	24	21	13	14	
	總 酸	19	12	24	45	42	20	29	
	「ペプシン」	3333	200	1000	3333	3333	/	250	

原 著 佐々井肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ボス「インシュリン」ノ影響

第 五 表

V例 某 32歳 三期、増、緩進、輕熱

事 項		採 取 時	試験食前	試 驗 食 後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對 照 (注射前)	遊 酸	/	/	0	0	0	7	4	/
	總 酸	/	/	2	3	1	17	13	/
	「ペプシン」	/	/	100	200	0	500	250	/
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	2	6	4	18	13	3
		總 酸	(-)	7	18	11	39	23	9
		「ペプシン」	0	50	250	66	333	333	250
	一週間連用後	遊 酸	0	2	4	11	12	5	4
		總 酸	±	2	17	28	27	11	10
		「ペプシン」	0	66	66	500	660	166	333

第 六 表

VI例 某 29歳 三期、増、停、無熱

事 項		採 取 時	試験食前	試 驗 食 後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對 照 (注射前)	遊 酸	0	0	0	10	22	12	30	22
	總 酸	(-)	8	26	35	22	42	31	
	「ペプシン」	/	50	1428	2080	666	6666	4000	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	20	8	16	40	36	32	28
		總 酸	28	17	36	60	47	41	37
		「ペプシン」	3333	560	1111	2500	3333	3333	3570
	一週間連用後	遊 酸	3	11	18	34	22	26	44
		總 酸	12	19	29	46	31	36	51
		「ペプシン」	3333	2000	830	1820	2000	5000	5000
二週間連用後	遊 酸	0	3	22	45	56	44	48	
	總 酸	2	12	33	67	70	55	66	
	「ペプシン」	100	333	1540	3333	4000	4000	5000	

原 著 佐々木肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ボス「インシュリン」ノ影響

第七表

Ⅶ例 某 24 歳 一期、増、停、無熱

事項	採取時	試験食前	試験食後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
對照 (注射前)	遊酸	/	5	5	4	6	6	12	
	總酸	/	9	15	15	17	17	25	
	「ペプシン」	/	180	180	±	±	±	670	
本試験	第一回注射時	遊酸	21	18	12	12	12	13	7
		總酸	30	31	28	27	28	26	26
		「ペプシン」	3333	1428	1111	1820	1820	2222	1250
	一週間連用後	遊酸	0	0	20	17	12	6	5
		總酸	3	2	32	30	28	17	13
		「ペプシン」	2222	200	1111	1250	2000	1050	3333
	二週間連用後	遊酸	0	0	34	11	3	10	13
		總酸	2	3	41	21	6	16	20
		「ペプシン」	222	200	666	500	200	333	1000
對照 (中止週後)	遊酸	8	0	9	12	6	/	8	
	總酸	13	1	16	22	18	18	20	
	「ペプシン」	2000	0	250	1666	1000	/	1000	

原 著 佐々川 肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ホス「インシュリン」ノ影響

第八表

Ⅷ例 某 25 歳 三期、増、緩進、微熱

事項	採取時	試験食前	試験食後						
			30'	1°	1°30'	2°30'	2°30'	3°	
對照 (注射前)	遊酸	12	6	18	20	20	0	0	
	總酸	18	18	30	35	37	5	3	
	「ペプシン」	1666	3333	500	1250	1428	500	100	
本試験	第一回注射時	遊酸	0	11	0	0	0	0	/
		總酸	/	20	9	2	/	2	/
		「ペプシン」	/	/	/	/	/	/	/
	一週間連用後	遊酸	21	36	33	16	11	+	+
		總酸	25	50	40	24	22	28	18
		「ペプシン」	3333	1000	1000	1000	1250	666	1820

驗	二週間連用後	遊 酸	25	4	18	11	12	24	0
		總 酸	31	15	31	21	25	42	6
		「ペブシン」	333	666	2830	2000	2000	5000	1000
對 照	(中一止週後間)	遊 酸	28	30	20	9	±	±	0
		總 酸	32	40	31	16	10	12	4
		「ペブシン」	2500	2222	2222	2000	2000	2222	200

第 九 表
IX例 某 33 歳 三期、増、緩進、輕熱

事 項	採 取 時	試 驗 食 前	試 驗 食 後						
			30'	1°	1° 30'	2°	2° 30'	3°	
對 照	(注 射 前)	遊 酸	0	0	7	20	30	29	26
		總 酸	1	(-)	20	39	50	47	44
		「ペブシン」	0	0	200	500	500	1111	1111
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	0	16	23	25	22	19
		總 酸	(-)	±	32	45	50	41	38
		「ペブシン」	0	0	140	222	333	500	500
	一週間連用後	遊 酸	0	0	0	8	13	20	22
		總 酸	2	5	3	27	26	33	34
		「ペブシン」	50	130	70	250	500	666	1000
	二週間連用後	遊 酸	0	0	0	17	23	26	17
		總 酸	(-)	1	2	30	40	43	31
		「ペブシン」	40	70	0	666	666	1428	1666
對 照	(中一止週後間)	遊 酸	0	0	17	28	26	28	34
		總 酸	(-)	8	35	47	46	48	54
		「ペブシン」	25	50	666	1111	1000	1428	1666

第 十 表
X例 某 20 歳 二期、増、停、無熱

事 項	採 取 時	試 驗 食 前	試 驗 食 後						
			30'	1°	1° 30'	2°	2° 30'	3°	
對 照	(注 射 前)	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(-)	±	4	6	7	9	12
		「ペブシン」	0	0	0	0	0	0	0

本 試 験	第一回注射時	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(±)	2	4	6	8	12	13
		「ペプシン」	0	0	0	0	0	0	0
	一週間連用後	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(-)	±	5	9	10	17	13
		「ペプシン」	0	0	0	0	0	0	0
	二週間連用後	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(-)	±	6	11	10	15	18
		「ペプシン」	0	0	0	0	0	0	0
對 照 (中止後)	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0	
	總 酸	2	1	3	7	13	12	16	
	「ペプシン」	0	0	0	0	0	0	0	

第 十 一 表
XI例 ■某 25歳 三期、増、緩進、微熱

事 項	採取時	試験食前	試 験 食 後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
對 照 (注射前)	遊 酸	29	7	14	15	17	22	23	
	總 酸	34	27	42	45	45	43	36	
	「ペプシン」	1000	2000	5000	4000	3333	10000	3333	
本 試 験	第一回注射時	遊 酸	20	9	15	14	14	28	41
		總 酸	21	28	42	44	44	46	48
		「ペプシン」	2000	1000	3333	4000	2000	3333	10000
	一週間連用後	遊 酸	21	10	5	8	19	25	19
		總 酸	26	30	32	30	35	36	25
		「ペプシン」	6666	3333	1666	1428	5000	10000	4000
	二週間連用後	遊 酸	21	12	4	14	31	13	6
		總 酸	23	14	20	26	40	17	8
		「ペプシン」	10000	500	500	1000	5000	5000	10000
對 照 (中止後)	遊 酸	14	0	10	14	16	24	20	
	總 酸	16	2	17	24	28	40	25	
	「ペプシン」	3333	0	200	333	500	1428	2500	

上表ヲ通覽スルニ六例(I、II、III、V、VI、VII)ニ於テハ第一回注射時ニ酸度ガ對照ニ比シ著明ニ上昇ス。動搖ヲ示サ
 ルハIV、IX、X、XIノ四例ニシテ、下降ヲ來セルハ一例(VIII)ニ過ギズ。然ルニ一週間連用後ニ於テハ對照ヨリ尙ホ高
 酸度ハ保ツモ第一回注射時ト同程度ニ止マルハVIIノ一例ノミニシテ他ノ五例(I、II、III、V、VI)ハ第一回時ヨリ
 下
 降ヲ示ス、第一回時變動ヲ現ハサザリシ例中三例(IV、XI、XI)ハ著シク下降ヲ示シ、唯ダ二例(VIII、X)ノミガ稍々
 上昇ヲ示セリ。二週間連用後ニ對照ヨリ酸度尙ホ高度ナルハVI、VII、Xノ三例、變化ナキハIV、VIII、XI(遊酸ノミ)、減
 少セルハIX及ビXI(總酸ノミ)ナルガ是等ヲ一週間後ノ値ト比較セバIV、VI、VII、IXノ四例ハ著明ニ上昇シ、X、XIハ不
 變、VIIIニ於テノミ下降ヲ示セリ。尙ホ連用中止後一週間目ニ於ケル値ハ多クハ對照ニ相接近シ、唯XIノ總酸度ノミガ著
 明ク下降ノ状態ニ止マレルヲ見ル。而シテ遊離鹽酸ト總酸トハ其ノ動搖經過ガ各例共大體ニ於テ平行セルヲ認ム。
 「ペプシン」量ハV及ビVIノ如ク酸度ノ上昇著明ナルニ不拘殆ンド増加ヲ來サザルモノ、又逆ニ酸度ノ消長ト反スルガ如
 、「動搖ヲ示ス例(VIII)ナキニシモアラザルモ、大體酸度ノ上昇ニ伴ヒテ增量ヲ來ス。但シ「インゼリン」連用中ノ其ノ消長
 、「酸ノ夫レノ如ク一ツノ型ヲトラザルガ如ク同一經過中ニテモ甚シキ動搖ヲ來スコト稀レナラザルヲ見ル。今コレ等成
 果ヲ總括スレバ左ノ如シ。(1)「インゼリン」三單位ノ一回注射ニヨリ胃液酸度ノ上昇ヲ來ス例多シ。(2)コレヲ一週間
 連用スルニ、其ノ上昇度ハ尙ホ保タルルモ第一回時ヨリ稍々下降ヲ示ス。(3)二週間連用後ニ於テハ再び著明ノ上昇ヲ
 示ル。(4)連用中止後一週間ニ於テハ既ニ其ノ影響ハ認メラレズ。(5)「ペプシン」量ハ大體酸度ノ消長ニ伴ヒ動搖スル
 二連用中ニ於ケル變動ハ酸度ノ示ス如キ型ハ認メラレズ。左第十二表ハコレヲ示ス總括表ナリ。

第 十 二 表 實驗(一)ノ成績總括

例	検査時				例	検査時							
	事項	第一回注射時	一週間後	二週間後		注射中止一週間後	事項	第一回注射時	一週間後	二週間後	注射中止一週間後		
I. 某	遊酸	+	+	+	II. 某	遊酸	+	+	+	「ペプシン」	+	+	+
	總酸	+	+	+		總酸	+	+	+		「ペプシン」	+	+

III, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	+	+	+	+	+	+
	總 酸 「ペラソン」	+	+							遊 酸	(-)	+	+	+	+	+
IV, 某	遊 酸	+	(-)							「ペラソン」	+	+	+	+	+	+
	總 酸 「ペラソン」	+	(-)							遊 酸	+	(-)	(-)	(-)	+	+
V, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	(-)	+	+	+	+	+
	總 酸 「ペラソン」	+	+							遊 酸	0	0	0	0	0	0
VI, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	+	+	+	+	+	+
	總 酸 「ペラソン」	(-)	+							遊 酸	+	(-)	+	+	(-)	(-)
VII, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	+	+	+	+	+	(-)
	總 酸	+	+							遊 酸	+	+	+	+	+	(-)
VIII, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	+	+	+	+	+	(-)
	總 酸 「ペラソン」	(-)	+							遊 酸	+	(-)	+	+	+	(-)
IX, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	(-)	+	+	+	+	+
	總 酸 「ペラソン」	+	+							遊 酸	0	0	0	0	0	0
X, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	+	+	+	+	+	+
	總 酸 「ペラソン」	+	+							遊 酸	+	(-)	+	+	+	(-)
XI, 某	遊 酸	+	+							「ペラソン」	+	+	+	+	+	(-)
	總 酸 「ペラソン」	(-)	+							遊 酸	+	(-)	+	+	+	(-)
備考 (+)ハ凡テ對照ニ比シテ増減ヲ示ス																

〔IV〕實驗ノ(二)一〇單位ヲ用ヒタル試驗

本試驗ハ七例ニ就テ行ヒ、I(中止後一週間ノ分缺)及ビIV(二週間後ノ分缺)ノ二例ヲ除キ凡テニ於テ、注射前(對照)、第一回注射時、一週間連用後、二週間連用後及ビ注射中止後一週間ニ於ケル五回ニ互リ胃液檢査ヲ施行シタリ。注射ハ一〇單位宛一日三回毎食前三〇分ニ行フ。

第十三表乃至第十九表ハ其ノ成績ヲ示ス。

本試驗ニ於テ第一回注射時ニ胃液酸度ガ對照ヨリ上昇ヲ示シタルハVノ一例ニ過ギズ、而モ著明ナラザルノミナラズ

第 十 三 表

I 例 某

事 項		採 取 時	試 驗 食 前	試 驗 食 後					
				30'	1°	1° 30'	2°	2° 30'	3°
對 照 (注射前)	遊 酸	0	0	24	21	0	0	0	
	總 酸	13	30	36	31	6	(-)	(-)	
	「ペプシン」	166	666	1000	1000	1000	0	0	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	0	2	16	±	0	0
		總 酸	(-)	24	9	3	13	7	±
		「ペプシン」	0	10000	400	2500	500	1111	25
	一週間連用後	遊 酸	0	0	30	25	12	0	0
		總 酸	(-)	25	39	38	22	11	(-)
		「ペプシン」	0	1428	3333	2500	1666	2000	25
	二週間連用後	遊 酸	0	0	0	15	21	12	0
		總 酸	(-)	9	17	30	33	24	(-)
		「ペプシン」	0	20	666	1250	3333	3333	0
對 照 (中止後)	遊 酸	/	/	/	/	/	/	/	
	總 酸	/	/	/	/	/	/	/	
	「ペプシン」	/	/	/	/	/	/	/	

原 著 佐々木肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ボス「インシュリン」ノ影響

第 十 四 表

II 例 某

事 項		採 取 時	試 驗 食 前	試 驗 食 後					
				30'	1°	1° 30'	2°	2° 30'	3°
對 照 (注射前)	遊 酸	40	24	30	40	36	/	/	
	總 酸	45	39	51	55	54	/	/	
	「ペプシン」	5000	2500	2500	2500	2000	/	/	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	30	20	27	35	38	/	/
		總 酸	37	43	48	56	62	/	/
		「ペプシン」	3333	2500	2500	2500	3333	/	/
	一週間連用後	遊 酸	30	28	20	48	30	/	/
		總 酸	37	48	37	65	60	/	/
		「ペプシン」	2500	2000	2000	2500	/	/	/

驗	二週間連用後	遊 酸	0	25	34	44	45	20	50
		總 酸	(-)	44	56	64	65	30	63
		「ペプシン」	0	1428	2000	2000	3333	5000	5000
對照	(中一週間後)	遊 酸	26	39	40	38	40	32	36
		總 酸	39	64	59	55	56	47	45
		「ペプシン」	6666	3333	2500	2500	2500	/	3333

第十五表

III例 某

事項		採取時	試験食前	試験食後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對照	(注射前)	遊 酸	22	39	28	12	28	26	0
		總 酸	26	58	52	38	50	49	36
		「ペプシン」	10000	5000	5000	2000	5000	10000	/
本試	第一回注射時	遊 酸	19	42	27	19	13	26	12
		總 酸	26	56	41	31	23	42	24
		「ペプシン」	2500	2500	2000	2500	2500	3333	2500
	一週間連用後	遊 酸	14	49	0	11	13	0	19
		總 酸	21	64	9	19	22	12	33
		「ペプシン」	2000	2500	1111	5000	2000	1000	5000
	二週間連用後	遊 酸	33	35	29	32	0	0	0
		總 酸	45	58	47	56	13	9	±
		「ペプシン」	5000	2500	2500	3333	1000	2000	/
對照	(中一週間後)	遊 酸	0	28	30	27	27	0	0
		總 酸	15	41	55	49	47	2	/
		「ペプシン」	5000	1666	3333	3333	3333	0	0

第十六表

IV例 某 35歳 二期、増、緩進、輕熱

事項		採取時	試験食前	試験食後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對照	(注射前)	遊 酸	0	23	30	27	28	30	13
		總 酸	(-)	33	45	36	35	43	26
		「ペプシン」	25	1666	1000	1111	1666	1666	2000

本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	12	23	31	30	11	0
		總 酸	2	28	37	46	42	20	2
		「ペプシン」	25	1428	1666	1666	2000	3333	0
	一週間連用後	遊 酸	0	39	44	41	22	24	26
		總 酸	±	55	61	60	34	40	44
		「ペプシン」	10	2000	1666	1428	1428	3333	/
	二週間連用後	遊 酸	/	/	/	/	/	/	/
		總 酸	/	/	/	/	/	/	/
		「ペプシン」	/	/	/	/	/	/	/
對 照	(中一週間後)	遊 酸	0	10	18	16	25	20	6
		總 酸	(-)	21	35	29	38	37	16
		「ペプシン」	25	1666	1666	1666	2000	3333	1428

第 十 七 表

V 例 ■■■ 某

事 項	採取時	試験食前	試 驗 食 後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
對 照 (注射前)	遊 酸	24	16	21	18	/	24	/	
	總 酸	32	25	34	32	/	36	/	
	「ペプシン」	1250	333	500	333	/	500	/	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	45	5	11	21	29	23	32
		總 酸	52	24	28	42	50	44	46
		「ペプシン」	2500	1000	250	250	1000	1000	500
	一週間連用後	遊 酸	7	0	9	11	16	23	/
		總 酸	11	8	17	23	30	35	/
		「ペプシン」	500	0	200	250	333	500	/
	二週間連用後	遊 酸	16	6	15	17	14	23	27
		總 酸	26	16	31	37	30	42	44
		「ペプシン」	1111	142	166	500	500	666	666
對 照 (中一週間後)	遊 酸	13	3	6	16	18	24	30	
	總 酸	21	8	15	33	37	40	46	
	「ペプシン」	1111	166	200	500	1000	1000	1000	

第 十 八 表

VI例 ■■■某 54歳 二期、増、停、無熱

事 項		採取時	試験食前	試 験 食 後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對 照 (注射前)	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0	0
	總 酸	(-)	1	1	±	1	1	3	
	「ペプシン」	80	±	±	±	±	10	±	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(-)	1	1	0.5	±	1	3
		「ペプシン」	50	25	50	20	±	10	16
	一週間連用後	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(-)	(-)	15	4	1	1	1
		「ペプシン」	25	33	50	50	±	±	25
	二週間連用後	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0
		總 酸	(-)	1	0.5	1	±	±	0.5
		「ペプシン」	33	100	10	50	2°	±	14
對 照 (中止後)	遊 酸	0	0	0	0	0	0	0	
	總 酸	±	1.5	1.5	2	±	±	±	
	「ペプシン」	10	14	33	33	±	±	33	

原、著 佐々井肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ホス「インシュリン」ノ影響

第 十 九 表

VII例 ■■■某 21歳 三期、増、停、微熱

事 項		採取時	試験食前	試 験 食 後					
				30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°
對 照 (注射前)	遊 酸	10	12	21	26	24	13	19	
	總 酸	18	20	37	47	40	27	33	
	「ペプシン」	2000	500	2500	2500	3333	2000	3333	
本 試 驗	第一回注射時	遊 酸	0	13	13	19	15	19	6
		總 酸	10	26	24	35	28	31	17
		「ペプシン」	3333	500	500	1428	1250	1250	2000
	一週間連用後	遊 酸	0	13	22	23	28	32	31
		總 酸	5	28	40	40	46	50	47
		「ペプシン」	0	1250	1428	1428	1666	2000	2500

驗	二週間運用後	遊 酸	0	18	20	21	31	35	30
		總 酸	10	40	44	46	56	59	45
		「ペプシン」	2500	/	2500	2000	2500	2860	2500
對 照	(一週間後)	遊 酸	0	10	21	30	26	28	29
		總 酸	8	19	37	40	49	45	45
		「ペプシン」	1428	250	1428	1000	1666	2000	2000

第二十表 實驗(二)ノ成績總括

例	検査時事項	第一回	一週間	二週間	注射中
		注射時	運用後	運用後	止一週後
I. 某	遊 酸	(-)	+	±	
	總 酸	(-)	+	±	
	「ペプシン」	+	+	+	
II. 某	遊 酸	(-)	±	+	+
	總 酸	±	±	+	+
	「ペプシン」	±	±	±	±
III. 某	遊 酸	±	(-)	±	±
	總 酸	(-)	(-)	±	±
	「ペプシン」	(-)	(-)	(-)	(-)
IV. 某	遊 酸	±	++		(-)
	總 酸	±	++		(-)
	「ペプシン」	±	+		+
V. 某	遊 酸	+	(-)	(-)	(-)
	總 酸	+	(-)	±	(-)
	「ペプシン」	+	±	±	+
VI. 某	遊 酸	0	0	0	0
	總 酸	±	+	±	±
	「ペプシン」	+	+	+	+
VII. 某	遊 酸	(-)	+	+	+
	總 酸	(-)	+	++	±
	「ペプシン」	(-)	+	+	+

備考 十、(-)ハ凡テ對照ニ比シテノ増減ヲ示ス

四例(I、II、III、VII)ニ於テハ寧ロ下降ヲ示セリ。不變ト見做サルルハ二例(IV、VI)ナリ。然ルニ一週間運用後ニ於テハ第一回時ヨリ上昇ノ傾向ヲトルモノ多ク(I、II、IV、VI、VII)、然モI、IV、VIノ三例ニテハ對照ヨリ著明ノ上昇ヲ示ス。唯ダIII及ビVニ於テハ遙カニ下降セリ。二週間後ニ於テハI及ビIIIハ最高酸度ノ現ハルル時間ハ遅ルレドモ其ノ値ハ對照ニ近ヅキ、II及ビVIIハ對照ヨリ少シク増加シ、Vハ尙ホ對照ニ及バズ。中止後一週間ニテハIIガ對照ヨリ稍々大ナル値ヲ示スノミニテ他ハ對照ニ戻ルカ(III、VI、VII)又ハ再ビ下降ヲ來ス(IV、V)。

遊離鹽酸ト總酸トノ増減ノ關係及ビ「ペプシン」量ノ増減ノ關係ハ實驗(一)ニ於テ見タル所ト同様ナリ。

而シテ本一〇單位ノ實驗成績ハ實驗(一)ニ於ケルガ如ク著明ナラザルモ大凡次ノ如ク總括ナスヲ得ベシ。(1)「インゼリン」一〇單位ノ第一回注射時ニハ胃液ハ對照ニ比シ其ノ酸度ノ上昇ヲ示サザルノミナラズ、却ツテ下降ナスモノアリ。(2)一週間連用後ニ於テハ酸度上昇シ、然モ對照ヨリ高位ヲ示スニ至ルモノ多シ。(3)二週間連用後ハ多クハ對照ノ値ニ前後ナスニ至ル。(4)中止後一週間ニ於テハ既ニ何等ノ影響モ認メラレザル如シ。(5)「ペブシン」量ハ酸度ノ増減ニ伴ヒテ消長ヲ示ス場合多キモ、必ズシモ然ラザル場合ヲ見ル。第二十表ハ此ノ總括ヲ示スモノナリ。

〔V〕實驗(一)及ビ(二)ノ成績ノ比較

今前記兩實驗ノ成績ヲ比較ナスニ次ノ如キ點ニ於テ相違アルヲ認ム。(1)實驗(一)ニテハ「インゼリン」ノ作用ニ歸シウベキ胃液酸度ノ動搖ガ全體トシテ著明ナルニ、(2)ニ於テハ甚ダ輕度ナリ。(2)實驗(一)ニ於テハ第一回注射時ニ胃液酸度ノ上昇ヲ示ス例多キニ、(2)ニ於テハ變化ナキカ、却ツテ下降ヲ來ス傾向ヲ示ス。(3)一週間連用後ハ實驗(一)ニテハ第一回時ニ比シ酸度稍々減少ノ傾キアルニ、(2)ニ於テハ増加ヲ示ス。但シ「ペブシン」量ノ關係及ビ注射中止後一週間ニ於ケル影響ヲ認メガタキ點ニ於テハ兩成績ハ一致セリ。

故ニ今兩成績ヲ綜合シテ觀察ナセバ、實驗(一)ノ一週間目以後ノ酸度ノトル經過ト、實驗(二)ノ第一回注射時ヨリノ夫レトガ殆ンド一致セルガ如シ。而シテ實驗(二)ニ於テモ第一回注射時酸度ノ上昇ヲ來セシ一例(V)ノ爾後ノ酸度ノトル經過ハ實驗(一)ノモノト同一ナルヲ見ル。

扱テ「インシュリン」ガ一般ニ認メラレタルガ如ク胃液分泌ヲ亢進セシムトセバ、其ノ少量ヨリ大量ニ於テガ作用ハ著明ナルベキハ當然想像セラルル所ナリ。余モ亦夫レヲ豫期シタリシニ殆ンド相反スルノ成績ヲ得タリ。即チ約三倍量以上ヲ使用シタル實驗(二)ノ成績ガ實驗(一)ノ夫レニ比シ著シク劣リ居レバナリ。但シコノ所見ハ「インゼリン」ノ少量ガ大量ヨリ却ツテ著明ニ空腹感ヲ惹起ナスコト多キ事實ト相通フ點アルヲ思ハシメテ興味少ナカラザルヲ覺ユルモノトス。而シテ夫レガ來ル原因ハ決シテ一ツニ止マラザルベキハ明ラカナルモ、「インゼリン」中ニ含マルル蛋白質ノ影響モ考慮セラルベキモノナルベシ。次ノ實驗ハ之レヲ明ニスル目的ヲ以テ施行セルモノナリ。

〔VI〕實驗ノ(三)「インゼリン」中ノ蛋白質ノ影響

前試驗トシテ先ヅ對照胃液ヲ検査シ、次日ニ「インゼリン」三單位ニ依ル影響ヲ見ル。後試驗トシテ對照胃液ヲ法ノ如ク
 検査シ、次日ニ「インゼリン」三單位ト、一定ノ操作ニヨリ非活動性トナシタル濃厚「インゼリン」〇・五坵(一〇單位ニ相
 当スル量)トヲ同時ニ注射シテ其ノ影響ヲ檢ス。若シ「インゼリン」中ノ蛋白質ガ何等カノ作用ヲ有ストセバ前後兩試驗
 成績ニ一定ノ差異ガ見ラルベケレバナリ。
 本試驗ヲ行ヒタルハ六例ニシテ、次表ハ其ノ結果ヲ示スモノナリ。

第 二 十 一 表

1例 ■ 某21歳 三期、増、緩進、輕熱

事項	採取時		試驗						
	試驗	食前	30'	1°	1°30'	2°	後	2°30'	3°
前試驗	遊酸	對本 21 對本 37	41 50	43 50	53 57	48 58	56 57	43 50	47 57
	總酸	對本 26 對本 40	.61 .67	63 75	70 78	63 79	70 75	56 65	56 65
後試驗	遊酸	對本 51 對本 62	43 51	44 61	60 67	65 73	46 73	36 68	36 68
	總酸	對本 60 對本 76	64 76	73 82	92 91	105 102	64 96	49 88	49 88
「ペプシン」	對本	1666	1428	2000	2500	2500	2500	2500	2500
	對本	1428	1666	2000	2000	2222	2500	2500	2500
「ペプシン」	對本	5000	1666	1428	1666	4000	3333	2000	5000
	對本	5000	1666	1428	1666	4000	3333	2000	5000

第 二 十 一 表
 例 ■ 某

事 項	採取時	試験食前	試 験 食 後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
前 遊 酸	對 本	6	28	28	0	15	16	0	±
	對 本	0	21	16	9	14	10	0	±
總 酸	對 本	14	42	43	1	22	27	10	-8
	對 本	1	32	29	19	25	19	2	-8
「マブソソ」	對 本	2000	2000	2500	1428	±	1428	1000	(-)
	對 本	±	2500	2000	12500	2500	2500	166	(-)
後 遊 酸	對 本	0	23	17	3	17	8	0	±
	對 本	0	0	0	0	0	0	0	±
總 酸	對 本	5	34	33	9	29	18	4	-1
	對 本	8	7	8	14	10	8	3	-1
「マブソソ」	對 本	1000	2100	1666	±	2000	2000	1000	(-)
	對 本	2000	±	±	166	500	1666	1666	(-)

第 二 十 三 表

四例 ■ 某42歳 三期、増、停、無熱

事 項	採取時	試験食前	試 験 食 後						
			30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°	
前 遊 酸	對 本	20	34	45	27	52	49	43	-34
	對 本	0	24	30	27	38	24	9	-34
總 酸	對 本	30	49	58	66	71	63	53	-39
	對 本	1	39	48	56	59	34	14	-39
「マブソソ」	對 本	1250	1666	1428	1666	2500	2500	3333	(-)
	對 本	1000	1000	1250	1250	2500	2500	2000	(-)
後 遊 酸	對 本	34	33	38	33	24	0	22	-8
	對 本	35	15	41	33	55	55	14	-8
總 酸	對 本	43	41	47	43	35	2	32	-5
	對 本	44	30	65	51	78	74	27	-5
「マブソソ」	對 本	2500	1666	1428	2500	2500	±	5000	(-)
	對 本	2500	1000	1250	1428	2000	2000	3333	(-)

第 二 十 四 表
IV 例 ■ 某

採取時 事項	試験食前		試 験 食 後												
	30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°									
前 試 驗	遊 酸	對本 0 對本 0	±	10 7	-3	13 11	-2	7 19	-4	18 14	-8	10 8	-8	0 7	+7
	總 酸	對本 1 對本 9	+8	19 14	-5	27 20	-7	27 29	+2	33 20	-13	41 17	-24	2 15	+13
後 試 驗	遊 酸	對本 0 對本 0	±	7 14	+7	5 9	+4	17 0	-17	12 0	-12	11 0	-11	10 0	-10
	總 酸	對本 3 對本 4	+1	13 21	+8	9 25	+16	30 21	-9	25 22	-3	21 16	-5	25 16	-9
「アブゾン」 後 試 驗	遊 酸	對本 0 對本 0	±	500 500	±	500 500	±	1250 250	(-)	1666 333	(-)	1428 250	(-)	500 200	(-)
	總 酸	對本 1428 對本 500	(-)	500 500	±	500 500	±	1250 250	(-)	1666 333	(-)	1428 250	(-)	500 200	(-)

第 二 十 五 表

V 例 ■ 某 28 歲 二期、増、停、無熱

採取時 事項	試験食前		試 験 食 後												
	30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°									
前 試 驗	遊 酸	對本 0 對本 0	±	24 29	+5	14 27	+13	20 22	+2	39 16	-23	17 4	-13	0 0	±
	總 酸	對本 1 對本 1	-1	41 47	+6	24 43	-9	42 32	-10	49 26	-23	25 13	-12	6 3	-3
「アブゾン」 後 試 驗	遊 酸	對本 0 對本 0	±	1666 1428	(-)	1250 1428	+	1428 1250	(-)	3333 1666	(-)	2500 1666	(-)	2000 2000	±
	總 酸	對本 50 對本 0	(-)	1666 1250	(-)	2500 1666	(-)	2500 2000	(-)	2000 2000	(-)	2000 2000	(-)	1428 2000	+

第 二 十 六 表

VI 例 某

採 取 時 事 項	試 驗 食 前		試 驗 食 中		試 驗 食 後				
	30'	1°	1°30'	2°	2°30'	3°			
前 遊 酸	對 本	41	18	41	49	57	65	66	—4
	對 本	50	24	34	45	54	59	62	—4
	總 酸	48	36	63	68	75	81	82	—10
後 遊 酸	對 本	40	43	58	68	69	72	72	—10
	對 本	3333	2000	2000	2000	2500	5000	5000	(—)
	「ペプシン」	1666	1250	1666	1428	2500	2500	3333	(—)
後 總 酸	對 本	41	12	35	38	78	81	40	—9
	對 本	45	3	32	39	51	37	31	—11
	總 酸	50	32	60	54	85	95	51	—11
後 「ペプシン」	對 本	52	10	50	61	73	44	40	—11
	對 本	3333	1428	3333	2500	5000	10000	10000	(—)
	對 本	10000	143	3333	3333	3333	3333	10000	(—)

而シテコレ等ヲ總括シテ一表トナセバ第二十七表トナル。即チ二例(ⅡⅥ)ニ於テハ前後兩試驗共ニ分泌抑制的ノ結果ヲ

第二十七表

例 事項	試 驗		前	後
	遊 酸	總 酸		
I. 某	遊 酸	+	+	+
	總 酸	+	±	±
	「ペプシン」	(—)	(—)	(—)
II. 某	遊 酸	(—)	(—)	(—)
	總 酸	(—)	(—)	(—)
	「ペプシン」	+	±	±
III. 某	遊 酸	(—)	+	+
	總 酸	(—)	+	+
	「ペプシン」	(—)	(—)	(—)
IV. 某	遊 酸	±	—	—
	總 酸	(—)	±	±
	「ペプシン」	±	(—)	(—)
V. 某	遊 酸	±	±	±
	總 酸	±	±	±
	「ペプシン」	(—)	(—)	(—)
VI. 某	遊 酸	±	(—)	(—)
	總 酸	±	(—)	(—)
	「ペプシン」	(—)	(—)	(—)

備考 十、(—)ハ凡テ對照ニ比シテノ増減ヲ示ス

示シ、特ニ後試驗ニ於テ著シキモ、I、IV、Vノ三例ニテハ兩試驗成績ニ特別ノ差ヲ認メズ、尙Ⅲノ一例ニテハ前試驗ハ抑制的、後試驗ハ亢進的ノ結果ヲ示セリ。是等成績ヨリ推セバ余ガ使用シタル程ノ「インゼリン」中ノ蛋白質ハ

「インゼリン」其ノモノノ作用ニ一定ノ影響ヲ及ボスモノニアラズト云フヲ得ベシ。

〔VII〕實驗ノ(四)胃液所見ノ日差の動搖

實驗(一)ノ第一同時ト、實驗(三)ノ前試驗トヲ比較スルニ何レモ三單位ヲ用ヒタルニ前者ニアリテハ一般ニ酸ノ上昇示シ、後者ニアリテハ却ツテ下降ヲ來ス。而モ實驗(一)ノI、VI、VIIハ夫々實驗(三)ノI、VI、IVト同一例ナルニ前ノ成績ハ全ク相反セルヲ見ル。コハ何故ナルカ。

テ胃液ノ分泌状態ハ同一人ニ於テモ毎時決シテ同様ナルモノニアラズシテ相當甚シキ動搖ヲ示スハ周知ノ事ニ屬ス、ヘバ寺島氏ハ生理的ニ酸度ニ於テ五〇%又ハ夫レ以上ノ動搖ヲ來シウルガ、先ヅ二〇%前後ノ變化ヲ以テアル作用ノ響トナスヲ得ベシト云フ。辻氏ハ酸度ノ一〇度以下ノ動搖ハ無變トナス。又平田氏ハ生理的昇降範圍ヲ遊離鹽酸ハ一乃至四二度、總酸ハ三〇乃至六〇度ナリト云フガ如シ、コノ關係結核患者ニテハ如何ナルカヲ見ントテ余ハ五例(I、II、III、IV₁、V₁)ニ就テ日ヲ異ニシテ胃液検査ヲ行ヒタリ。尙前試驗例ニテ「インゼリン」ヲ用ヒザリシ場合ノ胃液所見ヲ前後ヲ比較ナシウルモノ(III₂、IV₂、V₂、VI、VII、VIII)アレバ是等ヲ凡テ一表トナシテ觀察セン。

第二十八表 結核患者胃液ノ日差の動搖

患者例	採取時 事項	試驗食前	試 驗 食 後										備 考		
			30'		1°		1° 30'		2°		2° 30'			3°	
			前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		前	後
I、二無熱期十一増	遊離酸	前	51	34	49	57	50	38	11	14	前試驗	28/I			
		後	32	58	46	49	1	23	15	25	後試驗	29/I			
II、一期無熱	遊離酸	前	59	49	67	76	69	50	20	10	前試驗	28/I			
		後	36	66	56	70	11	28	22	30	後試驗	29/I			
III、八歳増	遊離酸	前	1616	1250	1428	1666	1666	1428	1666	2500	前試驗	28/I			
		後	1666	1428	1111	1428	1666	2000	+	2500	後試驗	29/I			
IV、二期無熱	遊離酸	前	14	14	26	33	38	35	34	13	前試驗	4/II			
		後	0	22	32	38	37	40	37	52	後試驗	5/II			
V、二期無熱	總酸	前	24	24	43	57	58	56	52	56	前試驗	4/II			
		後	3	36	45	53	52	57	41	56	後試驗	5/II			
VI、二期無熱	遊離酸	前	3333	1000	1250	1428	1428	1428	1428	1428	前試驗	4/II			
		後	500	1428	1250	1428	1666	2000	+	5000	後試驗	5/II			

IV、二期、 十五歳、 三歳、 三週進	遊腹	前	0	±	9	16	+5	12	+11	0	+16	0	±	0	±	前試験 7/II 後試験 8/II
	遊腹	後	0	±	0	21	+5	23	+11	16	+16	0	±	0	±	
	總腹	前	7	-7	14	31	+1	18	+16	7	+22	(-)	±	(-)	±	
	總腹	後	(-)	±	9	32	+1	34	+16	29	(-)	(-)	±	(-)	±	
IV、二期、 十五歳、 三週進	遊腹	前	5	(-)	1250	1111	(-)	500	±	500	±	0	(-)	125	100	±
	遊腹	後	5	(-)	500	333	(-)	500	±	500	±	0	(-)	125	100	±
	總腹	前	0	±	23	18	-12	16	-11	28	-3	30	-10	13	6	-7
	總腹	後	0	±	10	18	-12	16	-11	25	-3	20	-10	6	6	-7
IV、三期、 十歳、 二週進	遊腹	前	38	-29	32	38	+5	50	+7	57	+4	56	-5	52	56	+4
	遊腹	後	9	-29	37	53	+5	57	+7	61	+4	51	-5	56	56	+4
	總腹	前	48	-32	56	66	±	80	+5	86	+3	82	-11	75	79	+5
	總腹	後	16	-32	56	80	±	85	+5	89	+3	71	-11	75	79	+5
IV、三期、 十歳、 二週進	遊腹	前	2000	(-)	1250	1428	(-)	1666	(-)	1250	(-)	2000	(-)	2000	(-)	(-)
	遊腹	後	1250	(-)	1000	430	(-)	1428	(-)	1428	(-)	1666	(-)	1666	(-)	(-)
	總腹	前	21	+30	41	43	+2	53	+7	48	+17	56	-10	43	36	-7
	總腹	後	51	+30	43	44	+2	60	+7	65	+17	46	-10	36	36	-7
IV、三期、 十歳、 二週進	遊腹	前	26	+34	61	63	+3	70	+22	63	+42	70	-6	56	56	-7
	遊腹	後	60	+34	64	73	+3	92	+22	105	+42	64	-6	49	49	-7
	總腹	前	1666	±	1428	2000	±	2500	±	2500	±	2500	±	2222	2222	(-)
	總腹	後	2222	±	2500	2500	±	2500	±	2500	±	2500	±	2222	2222	(-)
IV、三期、 十歳、 二週進	遊腹	前	29	-6	40	36	-12	29	-3	41	+3	32	-5	15	0	-15
	遊腹	後	23	-6	23	31	-12	26	-3	44	+3	27	-5	0	0	-15
	總腹	前	37	-7	51	62	-15	65	-16	80	-19	50	-12	24	24	-24
	總腹	後	30	-7	38	47	-15	49	-16	61	-19	38	-12	(-)	(-)	-24
IV、三期、 十歳、 二週進	遊腹	前	500	(-)	666	500	(-)	1000	±	1428	±	1428	±	3333	100	(-)
	遊腹	後	100	(-)	500	333	(-)	1000	±	1428	±	1428	±	3333	100	(-)
	總腹	前	20	+14	34	45	-1	49	-16	52	-28	49	-49	43	43	-21
	總腹	後	34	+14	33	38	-1	33	-16	24	-28	0	-49	22	22	-21
IV、三期、 十歳、 二週進	遊腹	前	30	+13	49	58	-8	66	-23	71	-36	63	-61	53	32	-21
	遊腹	後	43	+13	41	47	-8	43	-23	35	-36	2	-61	32	32	-21
	總腹	前	1250	±	1666	1428	±	1666	±	2500	±	2500	±	3333	5000	+
	總腹	後	2500	±	1666	1428	±	2500	±	2500	±	2500	±	3333	5000	+

前試験 18/XII
後試験 29/XII
即ち前後ハ11日間隔アリ

前試験 14/II
後試験 15/II

前試験 22/XI
後試験 29/XI
即ち前後ハ一ヶ月以上ノ間隔アリ

前試験 12/II
後試験 15/II

前試験 18/III
後試験 19/III
前後ハ3週間ノ間隔アリ、最初2週間ハ「インシュリン」10Eヲ一日三回連用シタルモノナリ

VI、 三期、 無熱、 十九増、 某歲、 三、 川	遊酸	前 後	41 41	±	18 12	-6 -6	41 35	-6 -6	49 35	-6 -6	57 78	+21 +10	65 81	+16 +14	66 40	-26 -31	前試験 11/IV 後試験 23/IV 即ち前後ハ12日間隔 アリ
	總酸	前 後	48 50	+2	36 32	-4 -3	63 60	68 54	-14 -7	75 85	+10 +9	81 95	+14 +18	82 51	-31	前試験 15/V 後試験 6/XI 即ち前後ハ3週間ノ間 隔アリ、最初2週間ハ 「インゼリン」10Eヲ1 日3回連用シタルモノ ナリ	
VII、 三期、 無熱、 十増、 某歲、 三、 川	遊酸	前 後	10 0	-10	12 10	-2 -2	21 21	± ±	26 30	+4 +4	34 26	+2 +2	13 28	+15 +15	19 29	+10 +10	前試験 13/IV 後試験 4/IV 前後ハ3週間ノ間隔 アリ、最初2週間ハ「イ ンゼリン」8Eヲ1日3 回連用シタルナリ
	總酸	前 後	18 8	-10	20 19	-1 -1	37 37	± ±	47 40	40 49	+9 +9	27 45	+18 +18	33 45	+12	前試験 13/IV 後試験 4/IV 前後ハ3週間ノ間隔 アリ、最初2週間ハ「イ ンゼリン」8Eヲ1日3 回連用シタルナリ	
VIII、 三期、 無熱、 十増、 某歲、 三、 川	遊酸	前 後	0 0	±	0 0	± ±	7 17	+10 +10	20 28	+8 +8	30 26	-4 -4	29 28	-1 -1	26 34	+8 +8	前試験 13/IV 後試験 4/IV 前後ハ3週間ノ間隔 アリ、最初2週間ハ「イ ンゼリン」8Eヲ1日3 回連用シタルナリ
	總酸	前 後	1 -	-1	8 8	+8 +8	20 35	+15 +15	39 47	+8 +8	50 46	-4 -4	47 48	+1 +1	44 54	+10 +10	前試験 13/IV 後試験 4/IV 前後ハ3週間ノ間隔 アリ、最初2週間ハ「イ ンゼリン」8Eヲ1日3 回連用シタルナリ

即ち前半五例ノ内相近似セル酸度ヲ示スハ二例(II、IV)ニシテ、I、III、V₁ノ三例ニテハ既ニ相當ノ動搖アルヲ見ル、然ルニVII及ビVIIIノ二例ハ前後ノ検査ガ約一ヶ月ヲ經過セルニ其ノ動搖甚ダ僅少ニスギザルナリ、コレニヨリ推論スレバ結核患者ノ胃液所見モ日ニヨリ相當高度ノ變動ヲ來スモノト爲スヲ得ベシ。從ツテ是等日差の動搖ハ「インゼリン」ノ作用ガ同一例ニテモ時ニ異ナル結果ヲ示スニ至ルニ關與スル所ナルベク、又「インゼリン」連用中ノ酸度ノトル經過ガ各例毎ニ必ズシモ一致セザル結果ヲ示ス理由ノ一ツモコレニ歸シウベキモノナルベシ。

[VIII] 空腹時ノ胃液

前述ハ凡テ試験食後ノ胃液ニ就テナレバ、茲ニハ早朝空腹時ノ胃液及ビ夫レニ及ボス「インゼリン」ノ影響ヲ觀察スベシ。其ノ爲メ前諸實驗中ノ空腹時ノ胃液ノ所見ヲ一表ニマトムルコト次ノ如シ。

第二十九表

例	検査日	胃液量 c.c.	遊酸度	總酸度	「ペプ シン」	
某	28/XI	3	0	1	±	
	29. 3E. 1M.	3	0	(-)	0	
	7/IV	3	0	(-)	0	
	9. 3E. 1M.	10	0	±	0	
	16. 3E. 1W.	40	0	(-)	0	
	23. 3E. 2W.	20	0	(-)	0	
	30.	23	0	±	0	
	11/IX	8	24	32	+	
	12. 10E. 1M.	7	45	52	+	
	19. 10E. 1W.	26	7	11	+	
	26. 10E. 2W.	26	16	26	+	
	3/X	20	13	21	+	
	某	29/II	35	12	18	+
		2/III 3E. 1M.	3	0	±	±
10. 3E. 1W.		75	21	25	+	
16. 3E. 2W.		50	25	31	+	
23.		37	28	32	+	
2/VIII		2	22	26	+	
3. 10E. 1M.		7	19	26	+	
10. 10E. 1W.		28	14	21	+	
17. 10E. 2W.		23	33	45	+	
24.		26	0	15	+	
10/XII		52	32	40	+	
12. 3E. 1M.		15	13	20	+	
某		18/XII	32	20	30	+
		19. 3E. 1M.	13	0	1	+
	29.	37	34	43	+	
	31. 3E. 1M.	17	35	44	+	
	14/I	22	27	37	+	
15.	12	23	30	+		

例	検査日	胃液量 c.c.	遊酸度	總酸度	「ペプ シン」
某	15/X	16	10	18	+
	16. 10E. 1M.	12	0	10	+
	23. 10E. 1W.	12	0	5	0
	30. 10E. 2W.	7	0	10	+
	6/XI	17	0	8	+
某	4/II	40	14	24	+
	5.	10	0	3	+
某	12/IX	8	0	±	0
	28. 3E. 1M.	0			
	5/X 3E. 1W.	2	0	(-)	±
某	13/X	20	0	±	+
	14. 3E. 1M.	15	16	20	+
	22. 3E. 1W.	70	0	4	+
某	31/X	0			
	1/XI 3E. 1M.	0			
	8. 3E. 1W.	20	0	3	0
某	16. 3E. 2W.	7	11	19	+
	15/VI	0			
	18. 3E. 1M.	15	0	(-)	0
某	26. 3E. 1W.	12	0	±	0
	11/IV	55	29	34	+
某	13. 3E. 1M.	55	20	21	+
	20. 3E. 1W.	40	21	26	+
	27. 3E. 2W.	40	21	23	+
	4/V	17	14	16	+
	13/III	6	0	1	0
某	14. 3E. 1M.	4	0	(-)	0
	21. 3E. 1W.	4	0	2	+
	28. 3E. 3W.	13	0	(-)	+
	4/IV	10	0	(-)	+

例	検査日	胃液量 c.c.	遊酸度	總酸度	「ペプ シン」
■ 某	31/I	15	0	1	+
	1/II 3E. 1M.	14	0	±	+
	8/IV	10	0	(-)	+
	9. 3E ^x . 1M.	12	0	(-)	0
■ 某	7/IX	80	0	(-)	0
	8. 3E. 1M.	33	0	(-)	0
	14. 3E. 1W.	25	0	2	+
	3/VII	25	0	13	+
	4. 10E. 1M.	40	0	(-)	0
	11. 10E. 1W.	15	0	(-)	0
	18. 10E. 2W.	25	0	(-)	0
	28/XI	4	6	14	+
	29. 3E. 1M.	12	0	±	±
	26/XII	35	0	5	+
27. 3E ^x . 1M.	37	0	8	+	
■ 某	25/II	0			
	27. 3E. 1M.	20	21	30	+
	5/III 3E. 1W.	25	0	3	+
	12. 3E2. W.	12	0	2	+
	19.	18	8	13	+
	23/I	40	0	1	+
	24. 3E. 1M.	48	0	9	+
	17/IV	42	0	3	+
	18. 3E. x1M.	32	0	4	+
	28/I	24	51	59	+
■ 某	29.	24	32	36	+
■ 某	15/I	13	0	(-)	±
■ 某	14/XI	2	0	±	±
備考○月日ノ下ノ3E. 10Eハ夫々3單位、10單位、1Mハ一回注射時、1W. 2Wハ一週間二週間連用後ヲ示ス 3E ^x ハ3E=0.5cc非活動性「インセリン」使用ナリ。○数字「イタリック」ハ「インセリン」ヲ用ヒザル時ヲ示ス。					

例	検査日	胃液量 c.c.	遊酸度	總酸度	「ペプ シン」	
■ 某	9/XII	2	0	±	0	
	12. 3E. 1M.	13	20	28	+	
	19. 3E. 1W.	4	3	12	+	
	26. 3E. 2W.	5	0	2	+	
	30/VII	5	40	45	+	
	31. 10E. 1M.	6	30	37	+	
	7/VIII 10E. 1W.	11	30	37	+	
	14. 10E. 2W.	2	0	(-)	0	
	21.	22	26	39	+	
	11/IV	28	41	48	+	
	12. 3E. 1M.	27	30	40	+	
	23.	16	41	50	+	
	24. 3E ^x . 1M.	12	45	52	+	
	■ 某	18/VIII	14	0	(-)	+
		20. 10E. 1M.	17	0	2	+
28. 10E. 1W.		16	0	(-)	+	
10/IX		16	0	(-)	+	
7/II		22	0	7	+	
8.		25	0	(-)	+	
■ 某	10/X	7	0	(-)	±	
	12. 10E. 1M.	12	0	±	±	
	19. 10E. 1W.	23	0	(-)	+	
	26. 10E. 2W.	40	0	±	+	
	2/XI	23	0	±	+	
	■ 某	22/XI	65	21	26	+
23. 3E. 1M.		20	37	40	+	
24/XII		15	51	60	+	
25. 3E ^x . 1M.		25	62	76	+	
12 ^{II}		15	38	48	+	
13.		7	9	16	+	

本表ヲ通覽スルニ同一患者ニテモ日ニヨリ其ノ所見ニ甚シキ相違ヲ示シ、單ニ「インゼリン」ノ作用ノミニ歸シガタキ點多ク、茲ニ於テモ胃液ノ日差の動搖ノ甚シキコトアルヲ知ル、從ヒテ本表ヨリシテハ一律ナル「インゼリン」ノ作用ヲ推定シ得ザルノ觀ナキニアラザルモ、コレヲ總體的ニ見ル時ハ第二〇表ニ示スガ如キ結果トナル。即チ其ノ量の關係ニ於テハ

第三十表 空腹時胃液所見總括

事項	採取時		摘要	
	常時	「インゼリン」使用後	常時	「インゼリン」使用後
胃液量	缺如	3回	2回	10cc以下...17回 11,,—20cc...15,, 21,,—30,,...11,, 31,,—40,,...9,, 41,,—50,,...0,, 51,,以上...4,,
	最高	80cc	75cc	...16回 ...24,, ...10,, ...7,, ...2,, ...3,,
	平均	20.7,,	20,,	
遊離鹽酸	缺如	27回 51%	36回 60%	
	最高	51度	62度	
	平均	12.5,,	9.9,,	
總酸	缺如	16回 30%	21回 35%	缺如トナセル内 「アルカリ」性...9回 中性...7回
	最高	60度	76度	...14回 ...7回
	平均	17.2,,	13.8,,	
「ペプシン」性陽	42回 79%	42回 70%	缺如...7回 痕跡...4回	...14回 ...4回

對照ニ比シ殆ンド相違ヲ見ズ、但シ酸度及ビ「ペプシン」量ニ於テハ「インゼリン」使用時ノ胃液ニアリテハ對照ニ比シ著シク低位ヲ示ス。故ニコレヨリ推セバ「インゼリン」ハ空腹時ニ於テハ胃液分泌ヲ亢進セザルノミナラズ、却ツテ抑制的ニ働クガ如キ感ヲ抱カシムルモノナリ。此ノ點 Porges 寺島氏等ノ報告ト全ク相反ス。「インシュリン」ノ分泌亢進作用ハ腓液ニテハ注射後既ニ三〇分以前ヨリ現ハル(倉持、行徳)トセラルルヲ以テ余ハ注射後三〇分ニ於テ胃液ヲ採取シタルナリ。然ルニ伊澤氏ニ據レバ、胃液ニテハ分泌開始マデニハ平均五〇分ノ潜伏時間ヲ要スト云フ、然レバ或ハ余ノ場合ニハ採取時間ガ多少早キニ失シタルニハアラザルカモ思惟セラル。蓋シコハ尙例症ヲ重ヌルニアラザレバ決定シ得ザル問題ナリ。

ニテハ三〇表ニ示ス如ク大多數ノ場合ニ於テ二〇珉以下ナルニ、太田氏ハ三〇乃至五〇珉、坂本氏等ハ二〇乃至四〇珉又中尾氏ハ二〇乃至五〇珉トナス、平均量ニ於テモ余ノ成績ハ最モ少ナキ坂本氏ノ成績ニ及バザルコト、遙カナルノミナラズ、太田、中尾兩氏ノ半量ニモ達セズ、コレニヨリ肺結核患者ノ空腹時ノ胃液量ハ健康者ノ夫レニ比シ著シク小ナル

次ニ余ノ成績ト太田氏(五六例)、坂本氏等(二三例)及ビ中尾氏(一五例)ノ健康者ニ就テノ報告トヲ比較ナスニ、(一)分量。余ノ例

第三十一表

検査名		太田	坂本等	中尾	佐々
事項	胃液量	缺如	0	0	5回
		最小	20c.c.	10c.c.	7c.c.
		最大	102,,	75,,	102,,
		平均	45.8,,	33,,	41.87,,
遊離鹽酸	○度	18例		20例	63回
	最低			0.5度	1度
	最高			64,,	62,,
	平均	15.4度		14.3,,	11.1,,
總酸	○度			2例	37回
	最低			2.5度	1度
	最高			76,,	76,,
	平均	26度		25.1,,	15.4,,
「ペ」 プシ	缺如			7例	29回
	陽性			84,,	89,,

〔IX〕試験食後ノ胃液

酸度ハ試験食後三〇分ニ於テ空腹時ヨリハ普通低位ヲ示シ、時間ト共ニ上昇シツ、或ル點ニ達スレバ再ビ下降シハジメ

原 著 佐々川肺結核患者ノ胃液及ビ夫レニ及ボス「インシュリン」ノ影響

ヲ知ル。(2)酸度、遊離鹽酸ノ缺如ガ一回モ見ラレザリシハ二十一例中僅カニ三例ニシテ、検査延回数一一八回中六三回ニ於テ缺如セルヲ見タリ。而シテ全例ノ約三分ノ一ニテ「アルカリ」性又ハ中性反應ヲ示シタルモノアリテ、其ノ頻度健康者ニ於ケルノ比ニアラズ、從ツテ平均酸度が健康者ノ夫レニ比シ著シク低位ナルハ當然ナリ。但シ酸性ヲ示ス例ノミニ就テ見レバ、總酸度ハ二〇度以下ヲ示スガ大多數ニテ尙健康者ニ比シ低位ナルモ(中尾氏ハ三〇度以下)、遊離鹽酸度ノミヲ見レバ大多數ニ於テ三〇乃至二〇度ノ間ヲ示シ中尾氏ノ二〇度以下ナルニ比シ遙カニ高位ニアリ。コレニヨリ結核患者ノ空腹時胃液ハ無酸ナル場合多キモ、遊離鹽酸ガ證明サル時ハ非常ニ高位ナル値ヲ示スモノナルコトヲ推シ得。(3)「ペプシン」。コレガ缺如セル場合ガ又多キハ、酸缺乏ガ多キヨリ見テ當然ナルベシ、但シ酸缺乏ノ場合ニモ尙コレヲ證明シ得ルコトシバシバナルハ中尾氏ノ報告ト一致セルヲ見ル。(4)坂本氏等ハ空腹時ノ胃液所見ハ試験食後ノ夫レト一致スル場合多シト云ヘリ。但シ結核患者ニ就テハ必ズシモ承認シガタキガ如シ。何トナレバ空腹時ノ酸度ハ高位ヲ示スニ、試験食後ハ却ツテ夫レニ及バザルガ如キ例(實驗(一)ノVII、實驗(三)ノV)。又空腹時殆ンド酸缺乏セルニ試験食後ハ高位ノ酸度ヲ示スガ如キ例(實驗(二)ノIV、實驗(三)ノV)等少ナカラザレバナリ。

第三十一表ハ前記各實驗者ノ成績ト余ノ成績トヲ參考ノタメニ示シタルモノナリ。

三時間ニ於テ食後三〇分ノ値前後ニ戻ルモノガ最も多シ。但シ一旦上昇シタルモノガ其ノ儘三時間ニ及ブモノモ見ラル而シテ是等酸度ノ上昇下降ハ一般ニ遞次的ナルルガ時ニ著シキ動搖ヲ示シ、爲メニ其ノ描ク曲線ガ「チクツアック」トナリ、最高酸度ガ二回現ハルルガ如キモノ存ス（小泉某ニテ著明ナリ）。遊離鹽酸ト總酸トハ大多數ノ場合相伴ヒテ上昇又ハ下降ヲナス。「ペプシン」量ハ消化ノ當初ハ酸度ニ伴ヒテ増加ヲ示スモ、後半ニ至リテハ酸度ノ下降ニ從ハズシテ其ノ儘ノ値ヲ保チ三時間ニ及ブモノ少ナカラズ見ラル。

以上ノ所見ハ大體ニ於テ健康者ニ就テノ報告ト相一致セル點ナリトス。只余ノ例ニテハ「ペプシン」量ガ時間的ニ甚シキ増減ヲ示シテ遞次的ノ曲線ヲ示ザル場合多キヲ見タリ。コレ「ペプシン」量ノ測定ガ酸度ノ測定ホド精確ナル能ハザルニ起因スルコトモアル可ケレドモ夫レノミニハアラザル可シ。

最高酸度ハ總酸ニ於テ平均四七・一度（一〇五乃至一七度）、遊離鹽酸ニ於テ三三・一度（八一乃至七度）ニシテ、コハ延回数ニ就テノ平均ナルモ大凡健康者ノ夫レト大差ナキモノトナスヲ得ベシ。而シテコレガ現ハルル時間ハ三〇分ヨリ三時間ニ互レルモ全回ノ三分ノ一ニ於テハ二時間ニシテ、大多數ハ一時間半乃至二時間半間ニアリ。コハ健康者ノ一時間乃至一時間二〇分（坂本）、又ハ一時間一〇分乃至一時間半（中尾）トセラルルニ比シ著シク遅キモノニシテ、中尾氏ノ云フ多酸症ノ場合（一時間四〇分以後）ニ相近キガ如シ、扱テ余ノ例ニテ最高總酸度ガ六〇以上ヲ示シタル二十五回ニ就テ其ノ時間ヲ見ルニ、三〇分ガ二回アルノミ、他ハ凡テ一時間半以後ナリ、コレ中尾氏ノ報告ニ一致ナスガ如キモ、總酸度ノ最高ガ三〇度以下ナル一四回（内六回無酸症）ニテ見ルモ、三〇分及ビ一時間ガ各一回ニシテ、他ハ凡テ一時間半以後ニ於テ現ハレタルヲ見ル。布施氏ノ「アドレナリン」又ハ「アトロピン」ヲ用ヒタル實驗ニ於テモ最高酸度ハ一時間以内ニ現ハレオル等ヨリシテモ、肺結核患者ノ胃液最高酸度ノ出現時間ハ健康者ニ比シ遙カニ遅ルルモノトナシ得ベシ。

第三十二表ハ各例ニ於ケル詳細ヲ示スモノナリ。

第三十二表 最高酸度及其出現時間

例	事項 検査日	遊離鹽酸		總 酸	
		度	時間	度	時間
某	31/X	27	1°30'	51	1°30'
	1/XI 3E. 1M.	22	1°30'	40	1°30'
	8. 3E. 1W.	19	2°	31	2°
	16. 3E. 2W.	22	1°30'	45	1°30'
某	15/XI	7	2°	17	2°
	18. 3E. 1M.	18	2°	39	2°
	26. 3E. 1W.	12	2°	28	1°30'
某	28/XI	28	2°	38	2°
	7/IV	0		12	3°
	9. 3E. 1M.	0		13	3°
	16. 3E. 1W.	0		17	2°30'
	23. 3E. 2W.	0		18	3°
	30.	0		16	3°
	11/IX	24	2°30'	36	2°30'
	12. 10E. 1M.	31	3°	50	2°
	19. 10E. 1W.	23	2°30'	35	2°30'
	26. 10E. 2W.	27	3°	44	3°
某	3/X	30	3°	46	3°
	29/II	20	2°	37	2°
	2/III 3E. 1M.	11	30'	20	30'
	10. 3E. 2W.	36	30'	50	30'
	16. 3E. 2W.	24	2°30'	42	2°30'
	23.	30	30'	40	30'
	2/VIII	39	30'	58	30'
	3. 10E. 1M.	43	30'	56	30'
	10. 10E. 1W.	49	30'	64	30'
	17. 10E. 2W.	35	30'	58	30'
某	24.	30	1°	55	1°
	10/XII	38	1°	55	30'
	12. 3E. 1M.	49	30'	62	2°

例	事項 検査日	遊離鹽酸		總 酸	
		度	時間	度	時間
某	7/IX	7	2°	14	2°
	8. 3E. 1M.	20	2°	30	1°30'
	14. 3E. 1W.	10	2°30'	20	2°30'
	3/VII	24	1°	36	1°
某	4. 10E. 1M.	16	1°30'	30	1°30'
	11. 10E. 1W.	30	1°	39	1°
	18. 10E. 2W.	21	2°	33	2°
	28/XI	28	30' 1°	43	1°
某	29. 3E. 1M.	21	30'	31	30'
	26/XII	23	30'	34	30'
	27. 3E ^x . 1M.	0		14	1°30'
	12/IX	17	3°	31	3°
某	28. 3E. 1M.	25	3°	41	3°
	5/X. 2E. 1W.	28	3°	42	3°
	13/X	26	2°	40	2°
某	14. 3E. 1W.	36	1°	45	1°
	22. 3E. 2M.	28	1°30'	39	2°
	9/XII	30	2030'	40	2°30'
某	12. 3E. 1M.	40	1°30'	60	1°30'
	19. 3E. 1W.	44	3°	51	3°
	26. 3E. 2W.	58	2°	70	2°
	30/VII	40	1°30'	55	1°30'
	31. 33E. 1M.	38	2°	62	2°
	7/VIII 10E. 1W.	48	1°30'	64	1°30'
	31. 10E. 2W.	50	3°	65	2°
	21.	40	1° 2°	64	30'
	11/IV	66	3°	82	3°
	12. 3E. 1M.	62	3°	72	3°
某	23.	81	2°30'	96	2°30'
	24. 3E ^x . 1M.	51	2°	73	2°

例	事項 検査日	遊離鹽酸		總 酸																									
		度	時間	度	時間																								
某	22/XI	56	2°30'	70	1°30' 2°30'																								
	23. 3E. 1M.	58	2°	78	2°																								
	24/XII	65	2°	102	2°																								
	25. 3E ^x . 1M.	73	2° 2°30'	102	2°																								
	12/II	57	2°	86	2°																								
	13.	61	2°	89	2°																								
某	18/XII	52	2°	71	2°																								
	19. 3E. 1M.	38	2°	59	2°																								
	29.	38	1°	47	1°																								
	31. 3E ^x . 1M.	55	2° 2°30'	78	2°																								
	14/II	41	2°	80	2°																								
	15.	44	2°	61	2°																								
某	31/I	39	2°	49	2°																								
	1/II 3E. 1M.	29	30'	47	30'																								
	8/IV	31	1°	51	1°																								
	9. 3E ^x . 1M.	31	1°30'	52	1°30'																								
某	28/I	57	1°30'	76	1°30'																								
	29.	58	30'	70	1°30'																								
某	4/II	38	2°	58	2°																								
	5.	40	2°30'	57	2°30'																								
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: right;">最高酸度</td> <td style="text-align: center;">回</td> <td style="text-align: right;">數</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">出現時間</td> <td style="text-align: center;">遊酸</td> <td style="text-align: right;">總酸</td> </tr> <tr> <td>30'.....</td> <td>15.....</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>10.....</td> <td>14.....</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>1°30'.....</td> <td>18.....</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>2°.....</td> <td>33.....</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>2°30'.....</td> <td>16.....</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3°.....</td> <td>14.....</td> <td>16</td> </tr> </table> <p>○數字「イタリック」ハ「インセリン」用ヒザリシ時ヲ示ス ○月日ノ下ニ3E. 1M. ハ三單位一同注射. 1W. 2W. ハ大々一週間連用、二週間連用ヲ示ス. 10E. モ同様 ○3E^x ハ 3Eニ 0.5cc非活動性「インセリン」ヲ用ヒタルモノ</p>						最高酸度	回	數	出現時間	遊酸	總酸	30'.....	15.....	13	10.....	14.....	12	1°30'.....	18.....	23	2°.....	33.....	32	2°30'.....	16.....	16	3°.....	14.....	16
最高酸度	回	數																											
出現時間	遊酸	總酸																											
30'.....	15.....	13																											
10.....	14.....	12																											
1°30'.....	18.....	23																											
2°.....	33.....	32																											
2°30'.....	16.....	16																											
3°.....	14.....	16																											

例	事項 検査日	遊離鹽酸		總 酸	
		度	時間	度	時間
某	25/II	12	3°	25	3°
	27. 3E. 1M.	18	30'	31	30'
	5/III 3E. 1W.	20	1°	32	1°
	12. 3E. 2W.	34	1°	41	1°
	19.	12	1°30'	22	1°30'
	23/I	18	2°	41	2°30'
	24. 3E. 1M.	19	1°30'	29	1°30'
	17/IV	17	1°30'	30	1°30'
	18. 3E ^x . 1M.	14	30'	25	1°
	13/III	30	2°	50	2°
某	14. 3E. 1M.	25	2°	50	2°
	21. 3E. 1W.	22	3°	34	3°
	28. 3E. 2W.	26	2°30'	43	2°30'
	4/IV	34	3°	54	3°
	11/IV	23	2°	45	1°30' 2°
某	13. 3E. 1M.	41	3°	48	3°
	20. 3E. 1W.	25	2°30'	36	2°30'
	27. 3E. 2W.	31	2°	40	2°
	4/V	24	2°30'	40	2°30'
	18/VII	30	1° 2°30'	45	1°
某	20. 10E. 1M.	31	1°30'	46	1°30'
	28. 10E. 1W.	44	1°	61	1°30'
	10/IX	24	2°	38	2°
	7/II	16	1°	31	1°
	8.	23	1°30'	34	1°30'
某	15/X	26	1°30'	47	1°30'
	16. 10E. 1M.	19	1°30' 2°30'	37	1°30'
	23. 10E. 1W.	32	2°30'	50	2°30'
	30. 10E. 2W.	35	2°30'	59	2°30'
	6/XI	30	1°30'	49	2°

次ニ長龜氏ハ一〇二例ノ初期結核患者ノ胃液ヲ検査シテ、其ノ六六・七%ニ於テ減酸症(遊離鹽酸一八度、總酸三〇度以下)アリシヲ見テ、初期結核患者ハ一般ニ減酸症ヲ呈スルモノニシテ、重症者ニテモ同様ナルベク、又初期患者ニテ譬ヘ多酸症ヲ示スモ、病勢進行ト共ニ酸度ノ下降ヲ來スベキナリト推定シ、其ノ原因ヲ慢性胃「カタル」ニ歸セリ。然ルニ余ノ二十一例中無酸症ヲ示シタルハ二例ニスギズシテ、而モ一例ハ一時性ナリシモノナリ。又減酸症ノ所見ハ検査延回数一八回中僅カニ一四回(内六回無酸症例)ニ過ギズ、且ツ反覆検査ニ際シ常ニ減酸症ヲ呈シタルハ一例モナシ。特ニ安井、小泉、堤等ハ三期患者ナルニ殆ンド凡テノ場合ニ於テムシロ多酸症ヲ示シタルナリ。長龜氏ハ試験食後五〇分ニ於テ検査ヲ行ヒタルモノナリ。故ニ未ダ消化ノ高調ニ達セズ從ヒテ酸度上昇ノ途ニアリシモノ多キガタメ、カク減酸症例ノ多キニ接シタルニハアラザルヤモ推シ得ルモ從來ノ文獻ノ多クハ長龜氏ノ報告ト一致スルモノナリ、特ニ重症者ニ於テハ無酸症ニ陥ルモノ多シト云フサヘアリ。コレ等余ノ成績ト相反スルモノタラズンバアラズ。但シ余ハ最近 *Klinische Wochenschr.* 誌上ニテ *Tuning* ガ一五〇例ノ各期肺結核患者ニ就テ實驗シ、無酸症九例(六%)、減酸症一三例(九%)、正常及ビ多酸症一二八例(八五%)ナル從來ノ文獻ト全ク相反スル成績ヲ得タルヲ報告セルニ接シテ余ノ所見ノ偶然ニアラザル可キ感ヲ強フナスモノナリ。

[X] 粘液及ビ膽汁

(1) 粘液。坂本氏ハ二三例ノ空腹時胃液中ニテ肉眼的ニ粘液ヲ認メシハ數例ニシテ、他ハ痕跡ニスギズト云フ。中尾氏ハ一一五例中一三例ノ空腹時胃液中ニ粘液ヲ證明シ、二三例ニテ痕跡ヲ見タリ。而シテ兩氏共是等粘液ノ證明セラルル者ノ多クハ胃「ゾンデ」ノ嚙下困難ナリシモノニシテ、尙試験食後ニテハ消化ノ末期ニ於テ、現ハルルコト多シトナス。一般ニ消化中ト雖モ少量ノ粘液ノ混在ハ病的トハ見做シ難シト云ハルルモ、余ノ例ニテハ其ノ混入ガ量ニ於テ、頻度ニ於テ高度ニシテ到底從來ノ報告ノ比ニアラズ、即チ空腹時ニテハ全検査回数ノ九三%ニ於テ證明セラル。後液ニ於テモ消化旺盛中ハ比較的少ナキモ(三・四・七%)、消化開始時(四二・三%)及ビ末期(五七・一%)ハ相當多數回ニテ見ラレタリ。而シテ全經過ヲ通ジテ全ク粘液ヲ見ザリシハ一回モナシ。コレ平井氏ノ胃癌患者ニ於ケル報告(前液八三・四%、後液七二・八

%ヨリモ甚シキモノニシテ、胃「ソन्द」嚥下困難ノミニテハ説明シ得ザル可ク、長龜氏ガ云フ如ク慢性胃「カタル」ニ起因スル粘液ト見ルヲ至當トセンカ。斯ク結核患者ニ慢性胃「カタル」ノ存在多キハ又其ノ胃液所見ノ日差的變動多キ一大因子タルベシ。

(2) 膽汁。余ハ同一例ニテ數回反覆胃液採取ヲ行ヒタルニヨリ、其ノ何レカノ場合ニ膽汁ノ逆流ヲ見、從ツテ全經過ヲ通ジ一回モ證明シ得ザリシハ二例ニ過ギズ、但シ膽汁ハ粘液ト異リ證明セラルル頻度ハルカニ小ナリ、第三十三表ハ粘

第三十三表

胃液採取時間	採取迄回数	粘混入迄回数	液混入迄回数	膽混入迄回数	汁混入迄回数
試験食前	113	105	92.9%	52	46.9%
試験食後三分	118	50	42.3%	6	
一時間	118	42		7	
一時間半	118	41	34.7%	3	
二時間	116	42		7	
二時間半	111	52	46.8%	9	
三時間	105	60	57.1%	14	13.3%

液及膽汁ノ出現度ヲ時間的ニ示スモノナリ。膽汁逆流ニ就テハ寺島氏(後液ニテ七%)、平井氏(前液三四%、後液三五・六%)、坂本氏(前液三一%、後液三〇・五%)。布施氏(五四%)等ノ報告ガ必ズシモ一致セズ、且ツ使用シタル試験食ニモ關係存スルモノナレバ、直ニコレ等ト比較シ得ザルハ勿論ナルモ、只余ノ例ニテハムシロ少ナキガ如シ。又膽汁ノ逆流ハ酸度高キ場合ニ多シト云ハルルモ(中尾必ズシモ然ラザルガ如ク、又試験食後ニ時間的關係ナク見ラルト云フ説(大野)アルモ、余ハ消化中ハ著シク少ナキヲ見タリ。尙コレノ多量ノ逆流ガ酸度ニ影響ヲ及ボシタルヲ思ハシメタル場合少ナカラザリキ。

〔XI〕總括

「インゼリン」ニ關スル事項

(一) 肺結核患者ノ胃液ニ及ボス「インゼリン」ノ影響(一時的及ビ連用時)ヲ知ランガため、一回三單位(一一例)及ビ一〇單位(七例)ヲ一週間又ハ二週間連用(毎食前三〇分ニ皮下注射トシテ與フ)シテ、注射前(對照)、第一回注射時、一週間後、二週間後及ビ中止後一週間ニ於テ分割的ニ胃液ヲ採取シテ検査シタリ。試験食トシテハ「パン」八〇瓦、白湯二〇〇坩ヲ用ユ。

(二) 「インゼリン」三單位一回注射ニテ胃液酸度ハ上昇ヲ來ス例多シ、一週間後ニハ稍々下降ノ傾向ヲ示シ、二週間後ニハ

再ビ上昇スルヲ見ル、中止後一週間ニテハ既ニ其ノ影響ハ認めラレズ。「ペプシン」量モ凡ソ酸度ノ動搖ト相伴フガ如シ。

(三)一〇單位ニテハ第一回注射時ハ却ツテ酸度ノ下降ヲ來ス例多シ、一週間後ニ於テハ上昇ヲ示シ、二週間後ニハ對照ノ値ニ戻ル、中止後ニテハ殆ンド何等作用ヲ認めズ。

(四)「インゼリン」注射三〇分後ノ空腹時ノ胃液ハ分量的ニハ對照ト大差ナキモ、酸度及ビ「ペプシン」量ハ寧ロ減少セルヲ認めタリ。

(五)「インゼリン」中ニ含まルル蛋白質ハ「インゼリン」其ノモノノ作用ニハ何等ノ影響ヲ及ボサズ。

(六)以上ヨリシテ、「インゼリン」ノ肺結核患者ノ胃液ニ對スル作用ニ就テハ次ノ如ク云フヲ得ベシ。(1)空腹時ニテハ注射三〇分後ハ尙分泌亢進作用ヲ示サズ。(2)試験食後ニハ著明ニコレヲ亢進ナス場合多シ、而シテ連用ヲナス時ニハ、アル一定ノ型ニ於テ動搖ヲ示スガ如シ、但シコレ等ノ關係ハ三單位ニテハ著明ナルモ、一〇單位ニテハ然ラズ。

(3)二週間連用ヲナスモ中止後一週間ニ於テハ既ニ其ノ影響ヲ認めズ。
胃液ノミニ關スル事項。

(一)肺結核患者ノ胃液所見ハ前液ニ於テモ、後液ニ於テモ相當高度ノ日差的動搖ヲ示スモノナリ。

(二)空腹時ニ於テハ、(1)胃液量ハ健康者ヨリモ少量ナル場合多ク、平均量ハ二〇㏄ニシテ健康者ノ半量以下ナリ。而シテ殆ンド全ク採取シ得ザリシ場合アリ。(2)遊離鹽酸ノ缺如スル場合、「アルカリ」性又ハ中性ヲ示シタル場合健康者ニ比シ遙カニ多シ、從ツテ平均酸度モ低ク、總酸一五・四度、遊離鹽酸一一・一度ナリ、但シ遊離鹽酸ガ存スル場合ハ一般ニ酸度高ク、平均二五・二度トナリ健康者ノ總酸度平均ニ近シ。(3)「ペプシン」ヲ缺如セル場合モ健康者ニ比シ多シ。(4)粘液ヲ胃液採取延回数ノ九三%ニテ、膽汁ヲ四七%ニテ證明シタリ。(5)空腹時胃液ノ所見ヲ以テ試験食後ノ胃液所見ヲ推定ハ許サレザルガ如シ。

(三)試験食後、(1)消化中ニ於テ酸度及ビ「ペプシン」量ノトル經過ハ健康人ト異ナラズ。(2)二十九例中無酸症ハ二例アリシノミ、他ハ凡テ普通又ハ寧ロ多酸症ニシテ、減酸症ヲ見ズ、最高酸度平均ハ検査延回数ニテ總酸四七・一度、遊離

鹽酸三三・一度、例數平均ニテ總酸四八・一度、遊離鹽酸三二・二度ニシテ健康者ノ夫レト大差ナキヲ見タリ。(3)最高酸度ハ大多數ニテ一時間半乃至二時間半ニ現ハレ、二時間ニ於ケルガ最モ多ク、約三分ノ一ヲ占ム、コレ健康者ヨリ三〇分乃至一時間オソキモノナリ。(4)粘液ハ消化ノ當初及ビ末期ニ於テ特ニ多ク見ラル。(5)膽汁ハ末期ニ於テ多キガ全體トシテハ健康者ヨリハ少ナキガ如シ。

(四)無酸症及ビ減酸症ノ例少ナキハ從來ノ報告ト一致セザル所見ナリ。

(五)前液ニ於テハ其ノ大部分ニ、後液ニ於テモ多クノ場合ニ粘液ノ混在ヲ見ルハ、肺結核患者ニ慢性胃「カタル」ノ多キヲ推セシムルモノナルベシ。

(六)是等肺結核患者ノ胃液ニ關スル點ハ、本研究ノ副所見ニ基クモノニシテ、胃液採取時ノ條件等ガ常時ト異ナレルモノ少ナカラズ、故ニ前記ヲ以テ直ニ結核患者ノ胃液ノ一般所見トナスハ妥當ヲ缺ク恐レナキニシモアラザルベキモ、其ノ一斑ハ視フニ足ルモノト信ズ、尙コノ點ニ關シテハ日ヲ更メテ觀察ヲ行ハント欲スルモノナリ。其他植物性神經系異常ノ影響等ニ就テモ尙今後ノ檢索ニ讓ラントス。

摺筆スルニ當リ御校閲ノ勞ヲ賜ハリシ所長田澤博士及ビ御指導ヲ仰ギシ東大坂口助教授ニ深謝ノ意ヲ表ス。

文 獻

- 1) 五斗敏吾, 機能制診新學. (大正九年版).
- 2) 須藤憲三, 小醫化學實錄. (大正十五年版).
- 3) 江田元一郎, (坂口著「インシュリン」47頁).
- 4) 大野繁七, 醫學中央雜誌. 第二〇卷. 1800頁. (抄録).
- 5) 津下百太, 東京醫事新誌. No. 2528. (昭和二年).
- 6) 澤田藤一郎, 外二氏, 東京醫事新誌. No. 2566 u. 2577. (昭和三年).
- 7) 岡田清三郎, 外三氏, 東京醫事新誌. No. 2589. (昭和三年).
- 8) 伊澤篤吉, 東京醫事新誌. No. 2621. (昭和四年).
- 9) 寺島正一, 醫事新聞. 1208號. (昭和二年).
- 10) 平井公行, 實驗消化機病學. 第一卷. 第六號. (大正十五年).
- 11) 行徳健助, 外一氏, 日本消化機病學會雜誌. 第二卷. 第十一號. (昭和三年).
- 12) 中尾幸夫, 日本消化機病學會雜誌. 第二十二卷. 第三號. (大正十二年).
- 13) 坂本恒雄, 外一氏, 日本消化機病學會雜誌. 第二十五卷. 第七、八、九號. (大正十五年).
- 14) 長龜久麿, 日本消化機病學會雜誌. 第二十六卷. 第六號. (昭和二年).
- 15) 太田喜直, 日本消化機病學會雜誌. 第二十六卷. 第十號. (昭和二年).
- 16) 後藤國生, 日本消化機病學會雜誌. 第二十六卷. 第十一號. (昭和二年).
- 17) 辻鏡, 日本消化機病學會雜誌. 第二十八卷. 第五號. (昭和四年).
- 18) 倉持眞一, 日本消化機病學會雜誌. 第二十八卷. 第八號. (昭和四年).
- 19) 布施義教, 千葉醫學會雜誌. 第六卷. 第一、三號. (昭和三年).
- 20) Schellong u. Hutschmid, Kl. Wochschr. No. 40 Jg. 6, (1927).
- 21) Popesco u. Diclesco, Münch. med. Wochschr. Nr. 11, (1928).
- 22) Kjeft, Trining, Kl. Wochschr. Nr. 22, Jg. 8, (1929).
- 23) 佐々木雄, 始核. 第六卷. 第十一號. 第七卷. 第十號. (昭和三年. 四年).